

# 「訪日外国人旅行者の医療に関する実態調査」結果

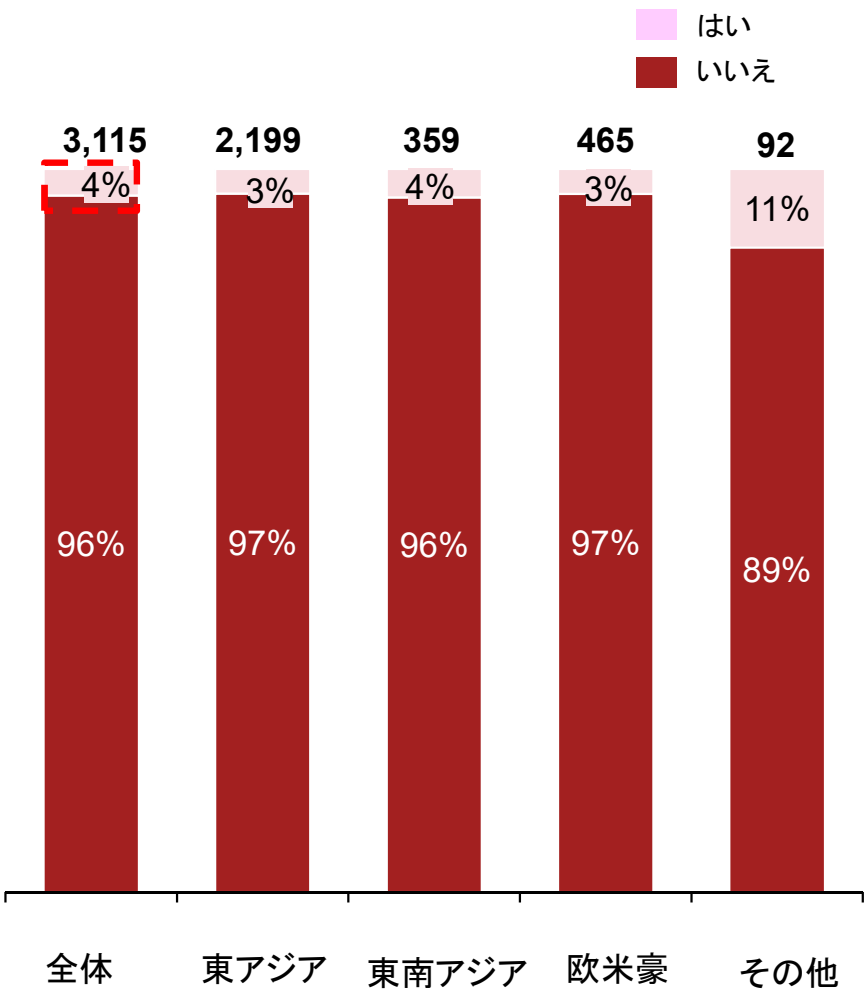
---

令和2年3月27日

# 外国人観光客の医療等の実態調査①(令和元年度 訪日外国人向け調査)

訪日外国人旅行者のうち旅行中に怪我・病気になったのは全体の4%で、その約6割が「風邪、熱」であった。

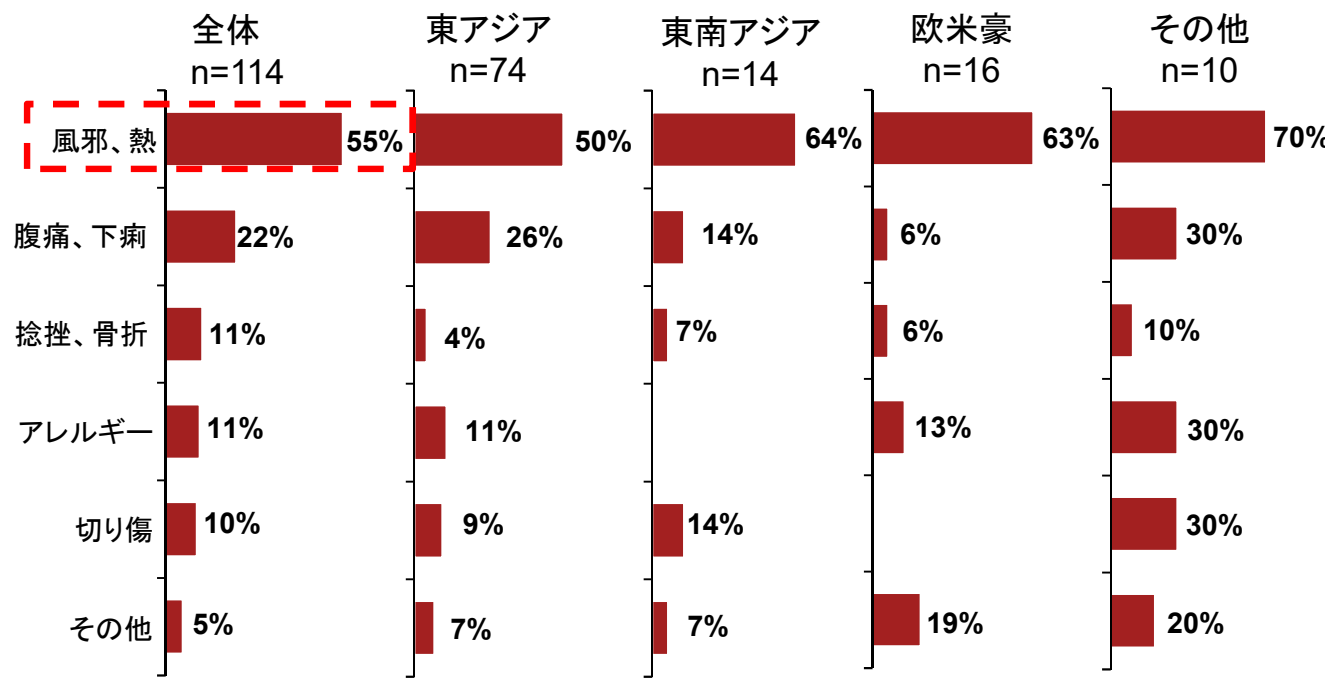
訪日旅行中に、怪我・病気になった割合 (n=3,115)



<調査概要>

調査地点	成田空港、羽田空港、関西空港、新千歳空港
調査期間	令和元年8月～令和元年12月
回答者数	3,115人

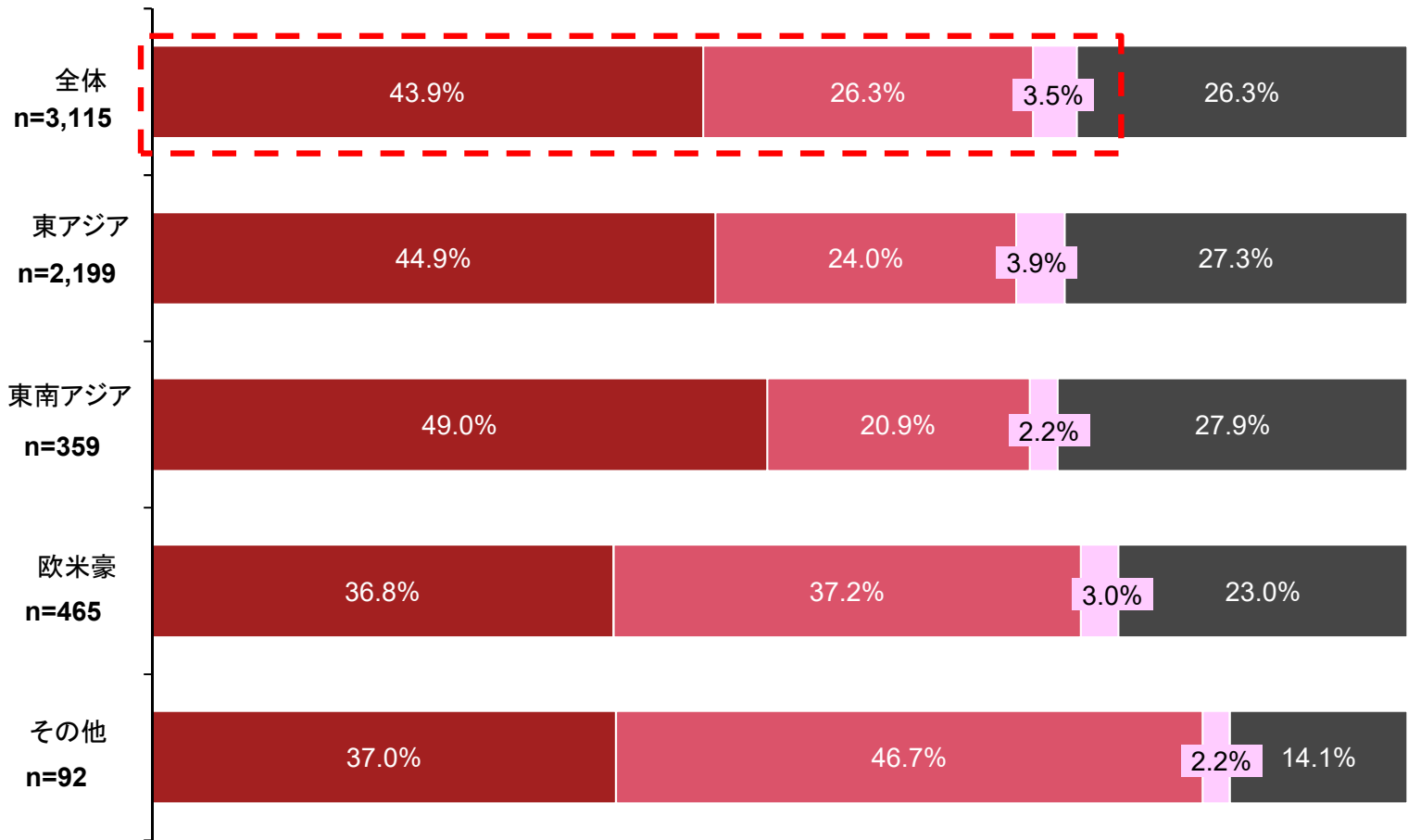
訪日旅行中になった怪我・病気の症状の割合 (n=114 複数回答)



# 外国人観光客の医療等の実態調査② (令和元年度 訪日外国人向け調査)

- ・旅行中に不慮の怪我・病気になったときの医療費をカバーする旅行保険の加入率は73.7%。
- ・旅行保険の加入方法は、全体的に「特定の場所で購入する」の割合が高い。

今回の訪日旅行における怪我・病気になったときの医療費をカバーする旅行保険の加入状況 (n=3,115)



(参考) 保険加入率の推移

H29年度	H30年度	R1年度
73.0%	73.1%	73.7%

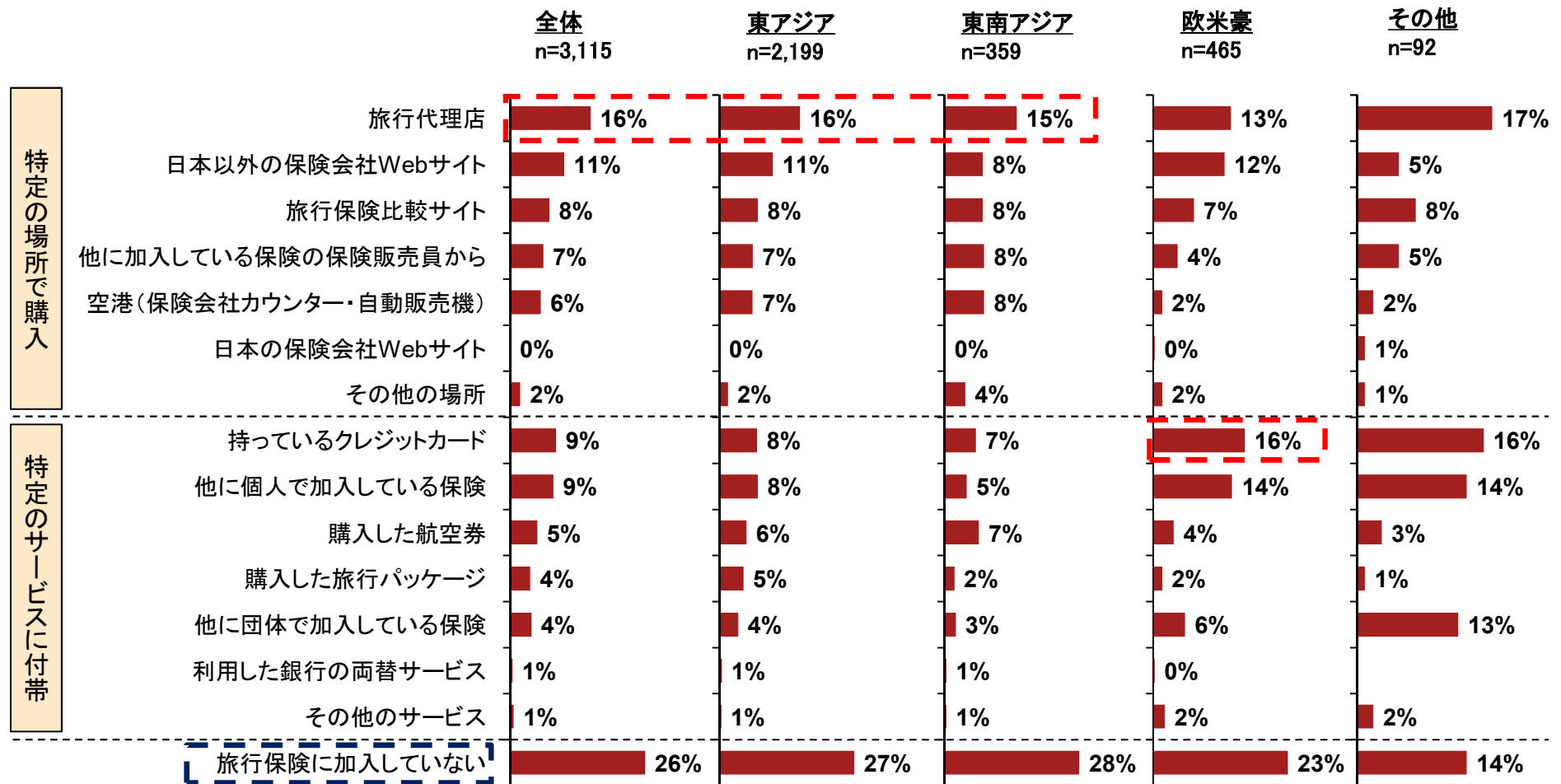
- 特定の場所で購入  
空港、旅行代理店、保険会社WEBサイト、空港旅行保険比較サイト、他に加入している保険の販売員から購入等
- 特定のサービスなどに付帯  
持っているクレジットカード、購入した航空券、購入した旅行パッケージ、他に団体に加入している保険等
- 上記両方
- 旅行保険に加入していない

加入状況の詳細は次ページに記載

# 外国人観光客の医療等の実態調査③ (平成元年度 訪日外国人向け調査)

- 旅行保険の加入方法として、全体、東アジア、東南アジアでは「旅行代理店で購入する」割合が高い。
- 一方、欧米豪では、「クレジットカードに付帯」と回答する割合が最も高い。

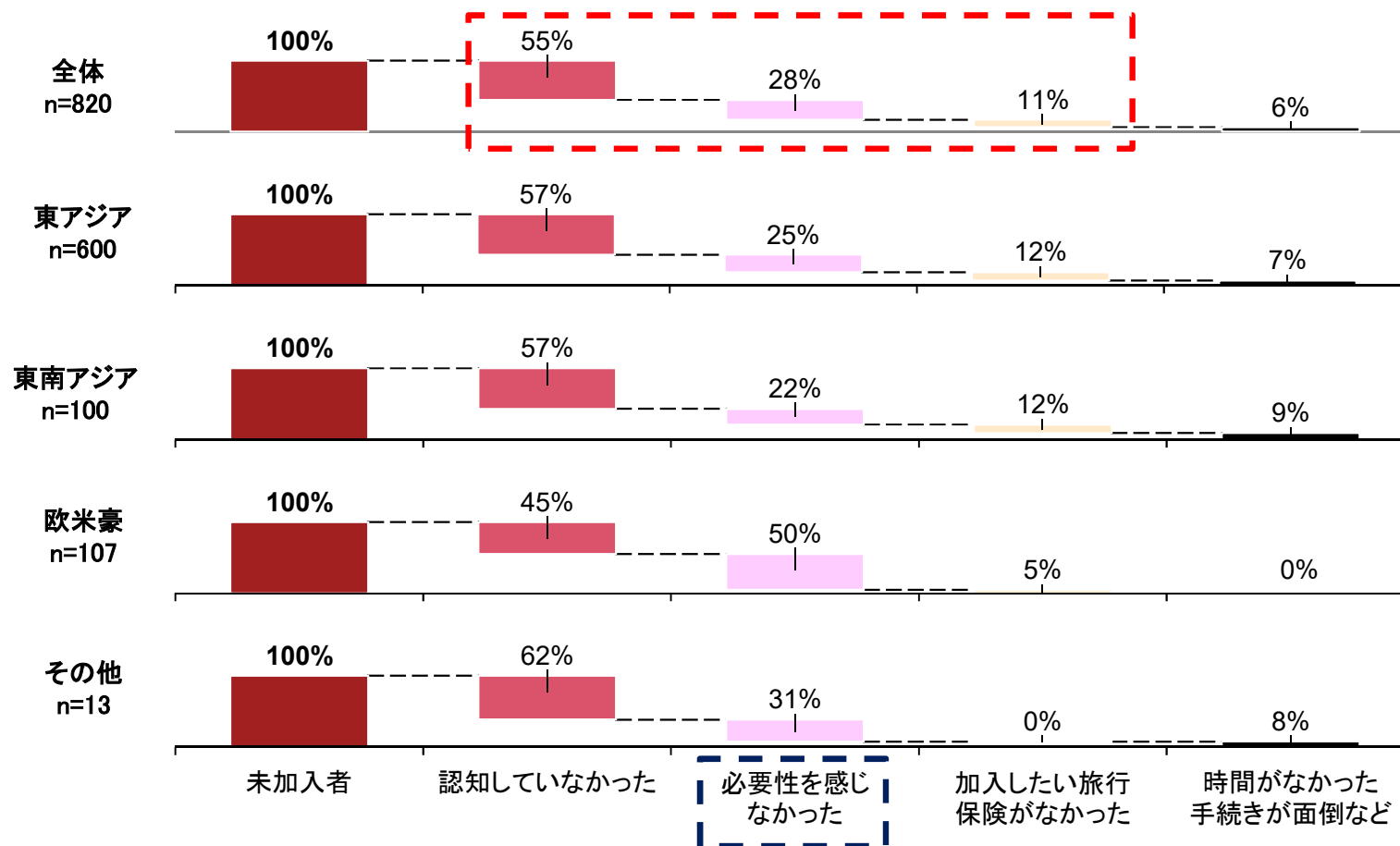
今回の訪日旅行における怪我・病気になったときの医療費をカバーする旅行保険の加入状況(地域別・詳細) (n=3,115、複数回答)



旅行保険の未加入理由は次ページに記載

・旅行中に怪我・病気になったときの医療費をカバーする旅行保険に加入しなかった人の理由としては、「旅行保険を認知していなかった」が55%で最も高く、次に「加入する必要性を感じなかった」が28%、「加入したい旅行保険がなかった」が11%の順となった。

## 旅行保険未加入者の未加入理由 (n=820)



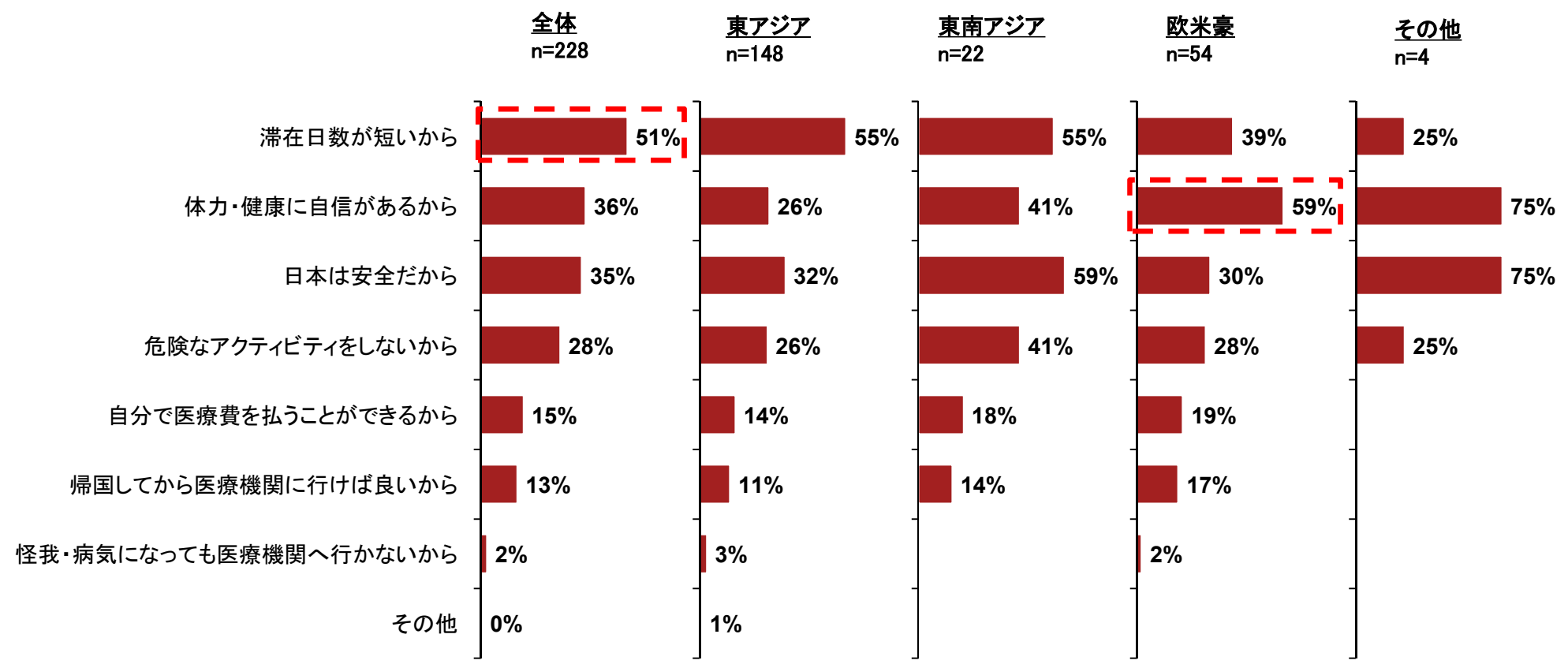
未加入理由の詳細は次ページに記載

# 外国人観光客の医療等の実態調査⑤ (令和元年度 訪日外国人向け調査)

- ・旅行保険未加入者のうち「加入する必要性を感じなかった人」に対してその理由を調査。
- ・全体では約5割が「滞在日数が短いから」を理由に旅行保険への必要性を感じていない。
- ・欧米豪では「体力・健康に自信があるから」という回答が最も高い。

## なぜ加入する必要がないと思うか？

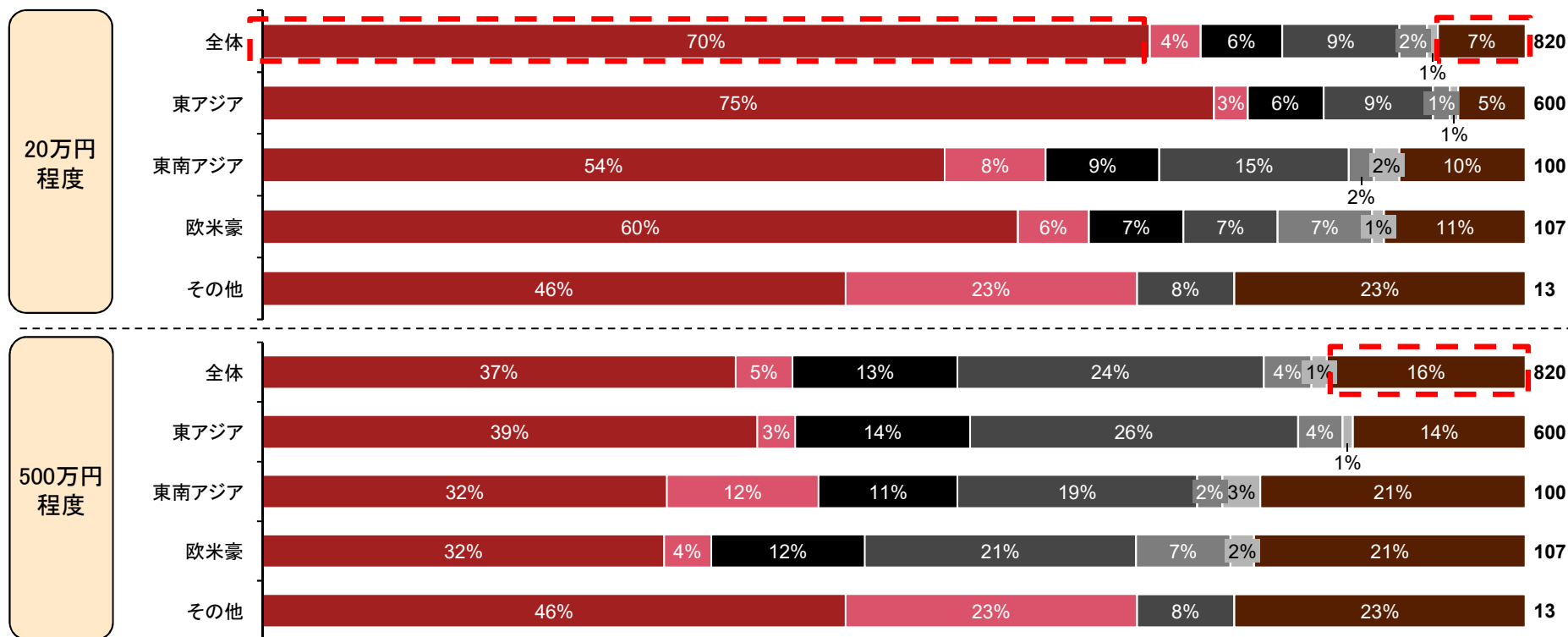
(n=228 複数回答 ※旅行保険未加入者のなかで「必要性を感じなかった」と回答した人のみ回答)



- 旅行保険未加入と回答した人に対して、医療費が高額となった場合の支払い方法を尋ねたところ、仮に医療費が20万円程度となった場合には、7割が現金・クレジットカードで支払うと回答した。
- 仮に医療費が20万円程度になった場合には、日本でも帰国後でも支払う方法がないと回答した割合は7%となった。医療費が500万円程度になった場合には、同割合が16%まで増加。

## 医療費が高額となった場合の支払い方法 (n=820)

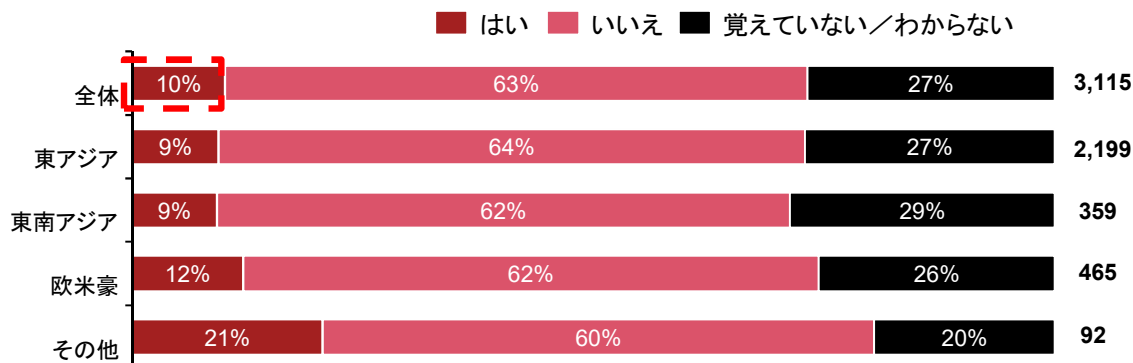
- 自分が持っている現金・クレカ残枠で支払う
- 日本にいない間、親戚・知人に立て替えてもらう
- 帰国後、自分の金融資産などで支払う
- 帰国後、親戚・知人に立て替えてもらう
- 帰国後、企業や団体からお金を調達して支払う
- その他の方で支払う
- 日本でも帰国後でも支払う方法がない



- インバウンド旅行保険の告知を見た人は、1割にとどまった。東京海上日動・損保ジャパン日本興亜が販売しているインバウンド旅行保険の購入割合は全体の2%程度であった。
- インバウンド旅行保険を知っていた場合の加入意欲は地域間でばらつきがあるが、東アジアでは28%、東南アジアでは38%が「加入したと思う」と回答し、一定の需要があることが確認された。ただし、加入するには、「出発前」にインバウンド旅行保険の存在を認知する必要があると回答した人が全体の約8割にのぼる。

## 告知・購入状況

### インバウンド旅行保険の告知を見たかどうか (n=3,115)

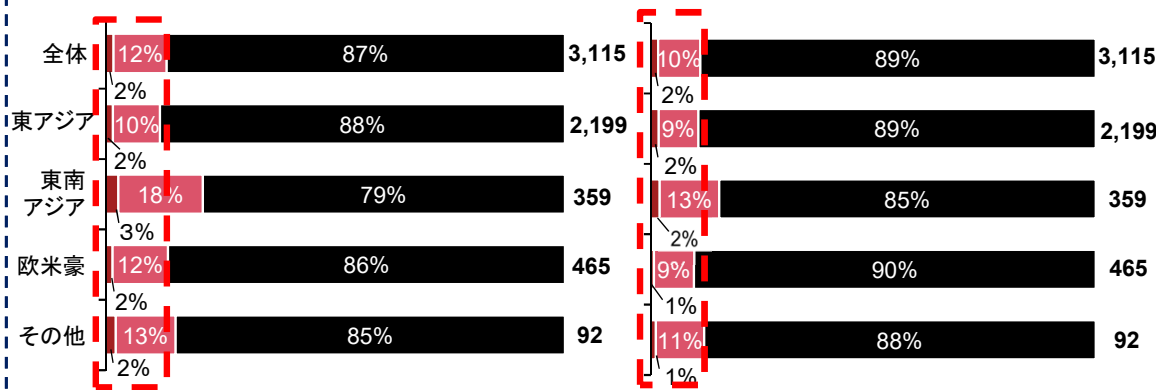


### インバウンド旅行保険の購入状況 (n=3,115)

■ この保険を購入した    ■ この保険は購入していないし、このような保険があるのも知らない  
■ この保険は購入はしていないが、このような保険があるのは知っている

#### 東京海上日動「訪日外国人向け海外旅行保険」

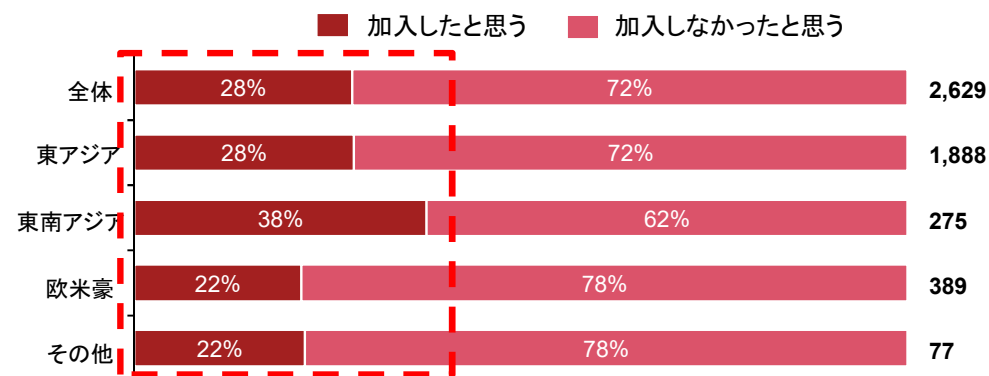
#### 損保ジャパン日本興亜インバウンド保険



## 加入意欲

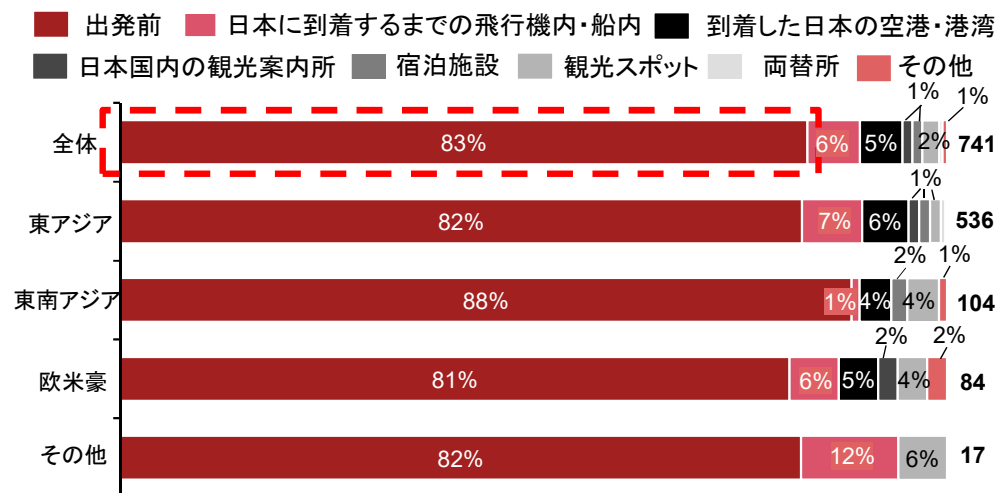
### 当該インバウンド旅行保険を知っていた場合、加入したと思うか？ (n=2,629)

※両社のインバウンド旅行保険を「知らない」と回答した人のみ回答



### どこでインバウンド旅行保険を認知していれば、加入したと思うか？ (n=741)

※上記で「加入したと思う」と回答した人のみ回答





# 外国人観光客の医療等の実態調査⑧ (令和元年度 旅行業者・宿泊施設向け調査)

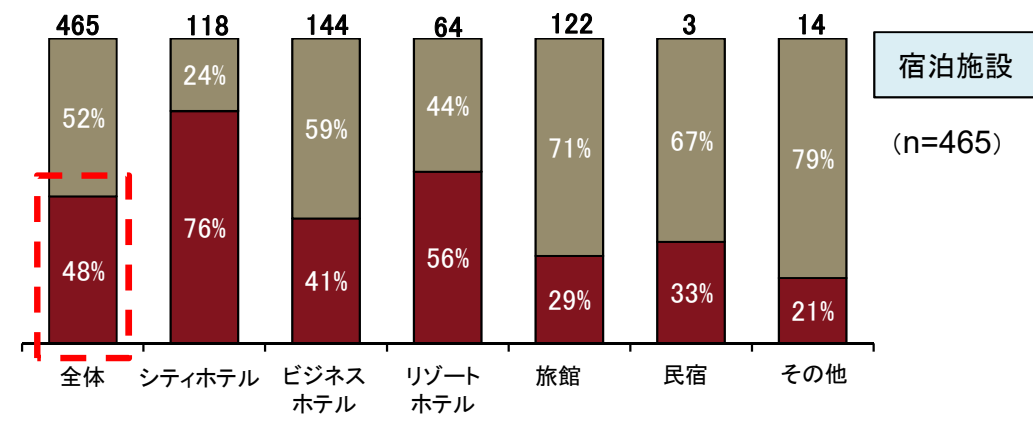
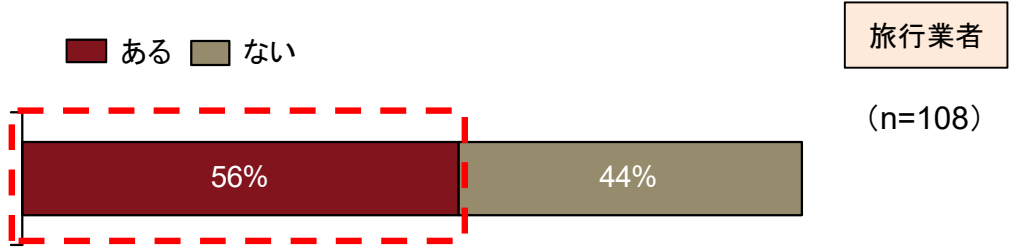
- 約半数の旅行業者・宿泊施設ではこれまでに旅行中の外国人旅行者が怪我・病気になったことがあると回答した。そのうちの多くが、外国人旅行者が医療機関に行くことが必要になったと回答した。

<調査概要>

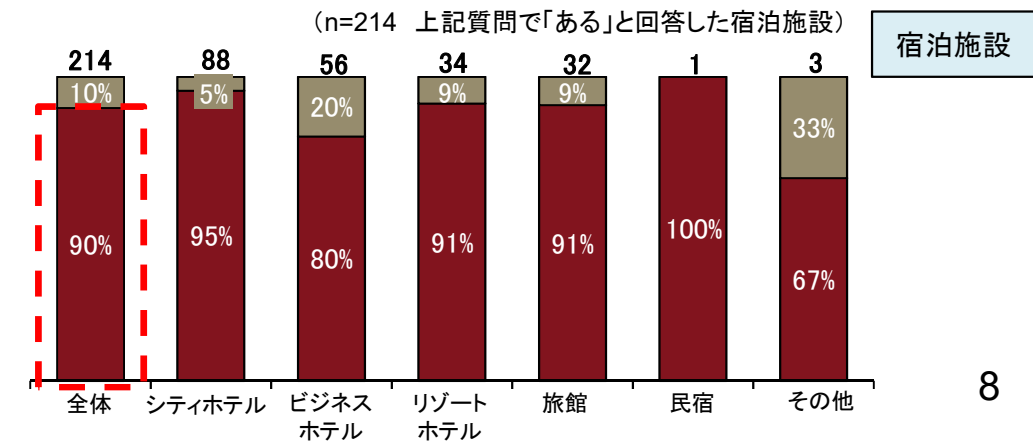
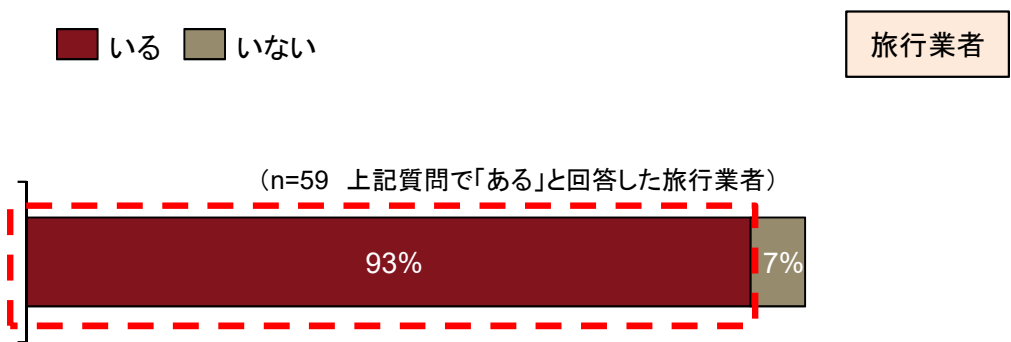
調査方法	調査票は業界団体等を通じて観光庁より配布。インターネットのサイトから回答
調査期間	令和元年11月～令和2年1月
回答者数	旅行業者 155社、宿泊施設 471施設

## これまでに「外国人旅行者」が旅行中に怪我や病気になったことがあるか

※外国人旅行者を手配した/宿泊させた事がある事業者に対して質問



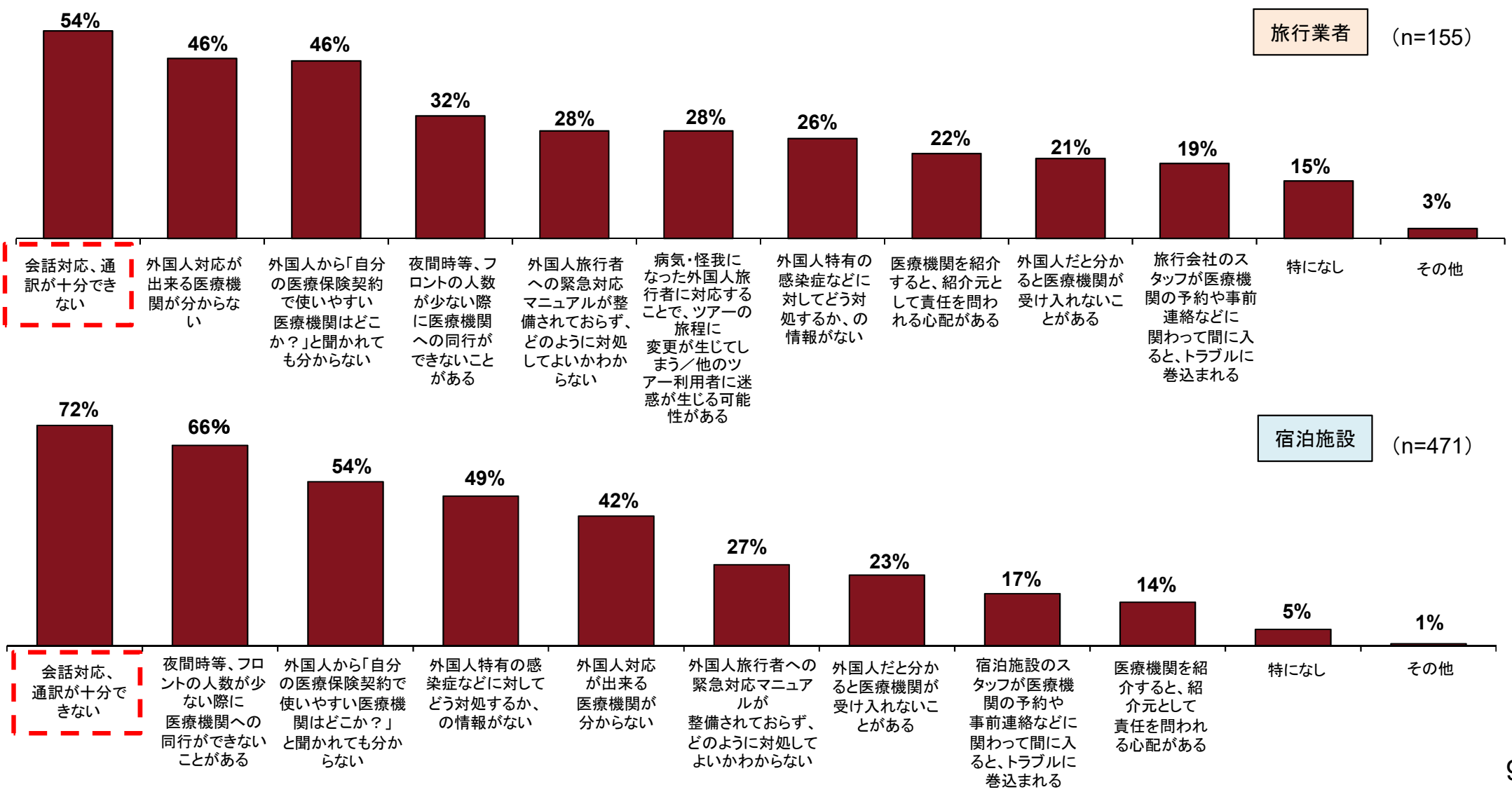
## これまでに、旅行中に怪我や病気になり、医療機関に行くことが必要になった「外国人旅行者」はいるか



# 外国人観光客の医療等の実態調査⑨(令和元年度 旅行業者・宿泊施設向け調査)

訪日外国人旅行者が怪我・病気になった際の対応で課題と感じている点として、旅行業者、宿泊施設ともに「会話対応・通訳が十分できない」を挙げる割合が最も高かった。

「外国人旅行者」が病気や怪我になった際の対応について、旅行業者・宿泊施設が課題と感じている点 (複数回答)



# 外国人観光客の医療等の実態調査⑩(令和元年度 旅行者・宿泊施設向け調査)

- 訪日外国人旅行者が怪我・病気になった際に備えて、実施している取組として旅行者、宿泊施設ともに「外国語対応ができるスタッフを配置している」の割合が高い。一方で「特になし」という回答割合も高い。

「外国人旅行者」が病気や怪我になった際に備えて、実施している取組 (複数回答)

